かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-7

いちぎょうじ・えんま・じごくごくらくえ

一行寺・閻魔・地獄極楽絵

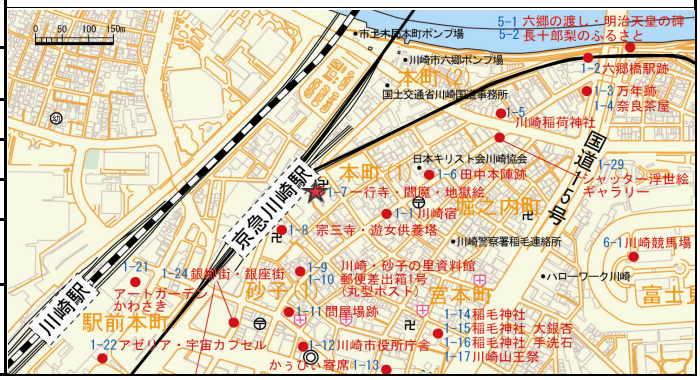
写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	冬・夏
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区本町1-1-5
問い合わせ	一行寺
TEL	044-222-3635
FAX	044-233-8241
E-mail	kgd01516@nifty.com
URL	http://www.ichigyo-ji.com/ （浄土宗一行寺）
交通	京急川崎駅より徒歩2分

マップ



基礎情報

■浄土宗で正式名称は専修山念仏院一行寺という。本尊は阿弥陀如来像。川崎宿の開設にともない寛永8年(1631)に念仏弘通の道場として顕譽円超上人によって創建された。当時は田中本陣が火急の際の宿泊者の避難場所にあてられていたという。
■別名「閻魔寺」とも呼ばれ、客殿に安置された閻魔座像と地獄極楽図が一般にご開帳される年2日の薮入りの日には大勢の参拝者でにぎわう。
■陰暦の1月と7月の16日を「薮入り」といい、閻魔王の斎日で地獄の釜が開く日とされている。この日ばかりは鬼も罪人を責めないといわれ閻魔詣でをする習慣があった。普段は非公開だが1月の第2日曜（または1月16日が日曜の時）と7月16日だけ見ることができる。

由来・エピソード

■戦前は薮入りの頃になると縁日が立って賑わい、子どもたちはお閻魔様をお参りし地獄絵図を見て怖がったものであったという。第二次大戦の戦火によって本尊や閻魔像、本堂など大半が失われ長いこと人々の語り草となっていたが、地元に「お閻魔さま復興委員会」が結成され昭和58年(1983)、本堂や客殿の新築にあわせて新しい閻魔座像がつくられた。
■地獄極楽図は千葉県安房延命寺に伝わる一六幅で、地獄に堕ちた極重悪業をなした者の現世での善行・悪行が全て閻魔帳には記録されていることから閻魔様をごまかすことが出来ないことをよく表している絵図である。
■客殿には戦後浄土宗務所の好意によって下付された江戸初期の阿弥陀如来座像が安置され、本堂には日本彫刻界の第一人者円鍔勝二氏による善導大師像、小森邦夫氏による法然上人像などが置かれる。また境内には川崎最初の寺子屋「玉淵堂」を開いた能書家浅井忠良の墓や富士講の大先達である宗教家西川満翁の墓がある。境内の入り口付近には戦火を生き残った樹齢400年を数える大銀杏が植わり、その下には江戸時代に名主であった稲波氏が旅籠紀伊国屋の隠居・中村翁の庭園を讃えて詠んだ歌を刻んだ「仮山碑」がある。旧川崎競馬場建設のため明治10年に廃園となり、昭和35年に一行寺に移設されたものである。

補足・その他

■7月16日の閻魔像のご開帳日には寄席が開催される。川崎区役所、東海道川崎宿2023主催。
■1月のご開帳は新宿青年会、他有志の皆さんにより境内に縁日のようにお店が催されにぎわう。

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-6)田中本陣跡